

シ ラ バ ス

2021 年度 前期

岐阜保健大学

リハビリテーション学部

作業療法学科

岐阜保健大学リハビリテーション学部教育理念等

[学校法人豊田学園 建学の精神]

命と向き合う心、知識、技を持った地域医療に貢献できる医療人の養成

【リハビリテーション学部】

[リハビリテーション学部] 教育理念

生命の尊厳を基盤とした倫理観をもち、全人的医療に関する知識と技能および態度を備えた理学療法士または作業療法士を養成する。また、その養成を通じて、広く地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献する。

[リハビリテーション学部] 養成人材像

理学療法、作業療法の専門的知識と技術、態度を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけ、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献することのできる高い資質と実践能力を持ったリハビリテーション専門職を養成する。

[リハビリテーション学部] 養成する能力

社会に貢献するための幅広く深い教養、総合的判断力及び誠実で豊かな人間性

人間の尊厳と権利と擁護する能力と高い倫理観を基盤としたヒューマンケアの態度

科学的根拠に基づき、理学療法、作業療法を計画的かつ安全に実践する能力

個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を評価し、より質の高い理学療法、作業療法を実践できる能力

対象のあらゆる心身機能・身体構造・活動・参加に対応して支援できる能力

保健医療福祉チームとの関係性を密にし、連携・協働して社会的ニーズや状況に対応した理学療法、作業療法を提供できる能力

リハビリテーション専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、専門性を発展させる能力

[リハビリテーション学部] ディプロマ・ポリシー

本学の建学の精神と教育理念に基づいて、以下に掲げる知識と技能ならびに態度を身につけ、所定の単位を修得するとともに、それらを総合的に活用してリハビリテーション専門職の責任を果たすことができる者に学士（リハビリテーション学）を授与する。

- 1) 生命に対する尊厳と人間に対する畏敬の念をもち、豊かな人間性のもと、地域および世界の人々と協働するために円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- 2) 多種多様なリハビリテーション対象者の支援に必要なかつ十分な基礎および専門的知識を修得し、人々の幸福と健康な生活の実現に貢献することができる。
- 3) 医学・医療の進歩と社会のニーズの変化に対応するため、自己の専門性を発揮し、科学的分析に基づく問題解決能力を磨き、自己実現することができる。
- 4) リハビリテーション対象者やその家族および保健・医療・福祉に関するあらゆる人々と連携し協力することができる。

[リハビリテーション学部] カリキュラム・ポリシー

建学の精神と教育理念に基づいたディプロマポリシーの実現のため、教育課程を以下に定める。

- 1) 教育課程は「総合科学科目」と「専門科目」の2科目区分から構成し、専門科目は「専門基礎科目」「専門展開科目」を設置し展開する。
- 2) 生命の尊厳や人間への畏敬、他者とのコミュニケーション等の医療人としての基礎的知識と態度の養成のため「基礎ゼミナール」「現代の倫理」「人間関係論」「コミュニケーション論」「英語」「英語」を総合科学科目に設置し展開する。
- 3) リハビリテーション学の基礎知識を修得するため、人体の構造と機能については「解剖学」「生理学」「運動学」を、疾病や障害の基礎については「病理学」「神経内科学」「整形外科学」を専門基礎科目に設置し展開する。さらに、専門知識と技能を修得するため、理学療法学科、作業療法学科ともに基礎療法学、評価学、治療学を専門展開科目に設置し展開する。
- 4) 理学療法や作業療法に関わる専門的かつ最新の技能および態度を修得するため、治療学の応用としての多様な演習や、総合理学療法学区分、総合作業療法学区分として「実践力演習」「卒業研究」を専門展開科目に設置し展開します。
- 5) 多職種連携と協働の理論のもと、行動力と実践力を養うために地域理学療法学区分、地域作業療法学区分、臨床実習区分を専門展開科目に設置し展開します。

[リハビリテーション学部] アドミッション・ポリシー【学部共通】

リハビリテーション学部では、理学療法学科、作業療法学科ともに、以下のような学生を求める。

- 1) 心身ともに自らの健康管理ができる人
- 2) 人の健康を支援することへの関心をもつ人
- 3) 必要な知識・技術の修得に努力し、自己研鑽を継続できる人
- 4) 仲間との協調性をもてる人
- 5) 地域における人々と暮らしに関心を持てる人

< リハビリテーション学部に入學するまでに学んでほしいこと >

入學を希望する人は、高等学校卒業までに国語・英語、生物等の自然科学を中心とした基礎学力を身につけておくこと。国語・英語の基礎学力は、講義や研究で文献検索、レポート作成など、自分の意見を伝える手段として必要不可欠である。自然科学の学力は、人間の行動、活動に対する分析、推理的な思考を養うために重要であるため。

【理学療法学科】

[理学療法学科] 養成人材像

理学療法士として対象者の心身の健康支援ならびに日常生活動作の改善を図る能力を身につける。また、QOL（生活の質）の向上に寄与するための専門的知識と技術、態度を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につける。更に、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献することのできる高い資質と実践能力を持った理学療法士を養成する。

[理学療法学科] ディプロマ・ポリシー

本学の建学の精神と教育理念に基づいて、以下に掲げる知識と技能ならびに態度を身につけ、所定の単位を修得するとともに、それらを総合的に活用してリハビリテーション専門職の責任を果たすことができる者に学士（リハビリテーション学）を授与する。

- 1) 生命に対する尊厳と人間に対する畏敬の念をもち、豊かな人間性のもと、地域および異なる国の人々と協働するために、多様な人々の立場を尊重し、円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- 2) 多種多様な理学療法対象者に対する専門的な支援に必要なかつ十分な基礎および専門的知識を修得し、自身が考案する支援について十分に説明する能力を身につけている。それらを通じて、人々の幸福と健康な生活の実現に貢献することができる。
- 3) 医学・医療の進歩と社会のニーズの変化に対応するため、自己の専門性を発揮し、科学的分析に基づく問題解決能力を磨き、心身の両側面から人を支援できる理学療法を創造することができる。
- 4) 理学療法対象者やその家族および保健・医療・福祉に関するあらゆる人々との協働に主体的に参画し、チーム医療や地域包括ケアに貢献することができる。

[理学療法学科] カリキュラム・ポリシー

建学の精神と教育理念に基づいたディプロマポリシーの実現のため、教育課程を以下に定める。

- 1) 教育課程は「総合科学科目」と「専門科目」の2科目区分から構成し、専門科目は「専門基礎科目」「専門展開科目」を設置し展開する。
- 2) 生命の尊厳や人間への畏敬、他者とのコミュニケーション等の医療人としての基礎的知識と態度の養成のため「基礎ゼミナール」「現代の倫理」「人間関係論」「コミュニケーション論」「英語」「英語」を総合科学科目に設置し展開する。
- 3) 理学療法学の基礎知識を修得するため、人体の構造と機能については「解剖学」「生理学」「運動学」等を、疾病や障害の基礎については「病理学」「神経内科学」「整形外科学」等を専門基礎科目に設置し展開する。また、専門知識と技能を修得するため、基礎理学療学区分に「理学療法概論」「臨床運動学」を、理学療法評価学区分に「理学療法評価検査・測定論」等を、理学療法治療学区分に各領域別治療学と「理学療法基礎治療技術論」「スポーツ障害理学療法学」「介護予防演習」等を専門展開科目に設置し展開する。
- 4) 多様化するニーズに対応した心身の両側面を支援する理学療法と問題解決能力に関わる専門的かつ最新の技能および態度を修得するため、治療学の応用としての多様な演習や、総合理学療

法学区分として「実践力演習」「卒業研究」を専門展開科目に設置し展開する。

- 5) 多職種連携と協働の理論のもと、行動力と実践力を養うために地域理学療法学区分には「地域理学療法学」「地域理学療法学演習」「多職種連携論」等を、臨床実習区分には 5 種類の臨床実習を専門展開科目に設置し展開する。

[理学療法学科] アドミッション・ポリシー

理学療法学科では、以下のような学生を求める。

- 1) 心身ともに自らの健康管理ができる人
- 2) 人の健康を支援することへの関心をもつ人
- 3) 必要な知識・技術の修得に努力し、自己研鑽を継続できる人
- 4) 仲間との協調性をもてる人
- 5) 地域における人々と暮らしに関心を持てる人

< 理学療法学科に入学するまでに学んでほしいこと >

入学を希望する人は、高等学校卒業までに国語・英語、生物等の自然科学を中心とした基礎学力を身につけておくこと。国語・英語の基礎学力は、講義や研究で文献検索、レポート作成など、自分の意見を伝える手段として必要不可欠である。自然科学の学力は、人間の行動、活動に対する分析、推理的な思考を養うために重要であるため。

【作業療法学科】

[作業療法学科] 養成人材像

対象者となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為の向上を図り、全人的支援を通じて健康と幸福度を促進し、人生の満足感を高めることに寄与するための専門的知識と技術、態度を備える。更には、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけ、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献することのできる高い資質と実践能力を持った作業療法士を養成する。

[作業療法学科] ディプロマ・ポリシー

本学の建学の精神と教育理念に基づいて、以下に掲げる知識と技能ならびに態度を身につけ、所定の単位を修得するとともに、それらを総合的に活用してリハビリテーション専門職の責任を果たすことができる者に学士（リハビリテーション学）を授与する。

- 1) 生命に対する尊厳と人間に対する畏敬の念をもち、豊かな人間性のもと、地域および異なる国々の人々と協働するために、多様な人々の立場を尊重し、理解することを通じて円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- 2) 多種多様な作業療法の実践に必要な基礎および専門的知識を修得している。また、人々にとって目的や価値を持つ生活行為の向上に貢献するために、対象者の生活行為に最も近くから寄り添う視点を持つ専門職としての技術と態度を身につけている。
- 3) 医学・医療の進歩と多様性に基づき、個別的・社会的ニーズの変化に対応するため、作業療法の専門性を発揮し、科学的分析に基づく問題解決能力を身につけている。更に、作業療法に対する探求心と研究心を備えている。

- 4) 作業療法対象者やその家族および保健・医療・福祉に関するあらゆる人々と協働するための専門的知識と技能を身につけている。また、論理的思考により様々な問題を解決できる行動力を身につけている。

[作業療法学科] カリキュラム・ポリシー

建学の精神と教育理念に基づいたディプロマポリシーの実現のため、教育課程を以下に定める。

- 1) 教育課程は「総合科学科目」と「専門科目」の2科目区分から構成し、専門科目は「専門基礎科目」「専門展開科目」を設置し展開する。
- 2) 生命の尊厳や人間への畏敬、他者とのコミュニケーション等の医療人としての基礎的知識と態度の養成のため「基礎ゼミナール」「現代の倫理」「人間関係論」「コミュニケーション論」「英語」「英語」等を総合科学科目に設置し展開する。
- 3) 作業療法の対象となる人々の理解と支援に必要な基礎知識を修得するため、人体の構造と機能については「解剖学」「生理学」「運動学」等を、疾病や障害の基礎については「病理学」「神経内科学」「整形外科学」等を専門基礎科目に設置し展開する。また、対象者にとって価値や目的を持つ生活行為を向上させるための知識と技能及び生活に寄り添う視点を身につけるために、基礎作業療法学区分に「基礎作業学」「作業療法理論」等を、作業療法評価学区分に「作業療法評価検査・測定論」等を、作業療法治療学区分に各領域別治療学と「作業と心身機能」「作業と神経生理」「生活行為向上マネジメント論」を専門展開科目に設置し展開する。
- 4) 多様化する個別的・社会的ニーズに対応した実践的作業療法と問題解決能力ならびに作業療法への探求心と研究心に関わる専門的かつ最新の技能および態度を修得するため、治療学の応用としての多様な演習や、総合作業療法学区分として「実践力演習」「卒業研究」等を専門展開科目に設置し展開する。
- 5) 多職種連携と協働の理論のもと、論理的思考に基づく行動力を養うために地域作業療学区分には「地域作業療法学」「地域作業療法学演習」「多職種連携論」等を、臨床実習区分には5種類の臨床実習を専門展開科目に設置し展開する。

[作業療法学科] アドミッション・ポリシー

作業療法学科では、以下のような学生を求める。

- 1) 心身ともに自らの健康管理ができる人
- 2) 人の健康を支援することへの関心をもつ人
- 3) 必要な知識・技術の修得に努力し、自己研鑽を継続できる人
- 4) 仲間との協調性をもてる人
- 5) 地域における人々と暮らしに関心を持てる人

< 作業療法学科に入学するまでに学んでほしいこと >

入学を希望する人は、高等学校卒業までに国語・英語、生物等の自然科学を中心とした基礎学力を身につけておくこと。国語・英語の基礎学力は、講義や研究で文献検索、レポート作成など、自分の意見を伝える手段として必要不可欠である。自然科学の学力は、人間の行動、活動に対する分析、推理的な思考を養うために重要であるため。

理学療法学科 カリキュラムマップ

			1年						2年						3年						4年					
			前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期		
			科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選
総合科学科目	基礎分野	科学的思考の基礎	基礎ゼミナール 情報科学 基礎統計学 哲学	1 1 1 1		問題解決法		1																		
		人間と生活	英語 教育学概論 現代の倫理 健康と生活	1 2 2 2		英語 心理と行動	1 2		中国語 岐阜県の歴史と文化	1 2		中国語 現代の教育	1 2		英語	1						英語			1	
		社会の理解	自己管理と社会規範 人間関係論 健康と運動（体育）	2 2 1		コミュニケーション論		1														チームワークとリーダーシップ			1	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学		2	解剖学演習 機能解剖学	1 1		機能解剖学演習	1																	
		生理学		1	生理学	1		生理学演習	1																	
		運動学		1	運動学	1		運動学演習	1																	
	生命倫理		1	人間発達学		1																				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				病理学 感染防御と安全管理 一般臨床医学	1 1 1		臨床心理学 呼吸循環器内科学 神経内科学 整形外科 精神医学 小児科学 スポーツリハビリテーション概論 老年学	1 1 1 1 1 1 1		栄養代謝学 医療薬理学 リハビリテーション工学	1 1 1		保健統計学 診療画像診断学 救急医学	1 1 1											
		保健福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2	リハビリテーション医学 地域包括ケアシステム論	2 1		社会福祉概論		1																
		基礎理学療法学			理学療法学概論 表面解剖学	2 2		臨床運動学	2					理学療法研究概論 理学療法教育学 理学療法管理学	1 1 1											
	理学療法評価学			理学療法評価概論	1		理学療法評価検査・測定論	1		理学療法評価検査・測定論	1		理学療法評価検査・測定演習 理学療法評価演習	1 2												
	理学療法治療学							物理療法学 運動療法学 日常生活活動学	1 1 1		物理療法学演習 運動療法学演習 日常生活活動演習 義肢装具学 理学療法基礎治療技術論 中枢神経系理学療法学 運動器系理学療法学 スポーツ障害理学療法学 発達障害理学療法学 内部障害理学療法学 老年期障害理学療法学	1 1 1 1 2 2 2 1 1 2 1		義肢装具学演習 リハビリテーション関連機器 中枢神経系理学療法演習 運動器系理学療法演習 スポーツ障害理学療法演習 発達障害理学療法演習 内部障害理学療法演習	1 1 1 1 1 1 1									介護予防演習	1	
		地域理学療法学						地域理学療法学	2							生活環境学	1		地域理学療法学演習	1		レクリエーション実践 多職種連携論	1 1			
		総合理学療法学				実践力演習	1				実践力演習	1		実践力演習	1							卒業研究 総合演習	1 2			
臨床実習					臨床実習（基礎）	1		臨床実習（地域）	1						臨床実習（評価） 臨床実習（応用）	3 8		臨床実習（総合）	8							
			18	5		20	3		20	4		20	3		17	1		12	0		9	0		4	4	
			23			23			24			23			18			12			9					

作業療法学科 カリキュラムマップ

			1年						2年						3年						4年																
			前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期													
			科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選	科目	必	選											
総合科学科目	基礎分野	科学的思考の基盤		基礎ゼミナール 情報科学 基礎統計学 哲学	1 1 1 1		問題解決法			1																											
		人間と生活		英語 教育学概論 現代の倫理 健康と生活	1 2 2 2		英語 心理と行動	1 2		中国語 岐阜県の歴史と文化	1 2		中国語 現代の教育	1 2		英語	1						英語		1												
		社会の理解		自己管理と社会規範 人間関係論 健康と運動（体育）	2 2 1		コミュニケーション論	1															チームワークとリーダーシップ		1												
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達		解剖学 生理学 運動学 生命倫理	2 1 1 1		解剖学演習 機能解剖学 生理学 運動学 人間発達学	1 1 1 1 1		機能解剖学演習 生理学演習 運動学演習	1 1 1				2																						
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					病理学 感染防御と安全管理 一般臨床医学	1 1 1		臨床心理学 呼吸循環器内科学 神経内科学 整形外科学 精神医学 小児科学 スポーツリハビリテーション概論 老年学	1 1 1 1 1 1 1		栄養代謝学 医療薬理学 リハビリテーション工学	1 1 1		保健統計学 診療画像診断学 救急医学	1 1 1																				
		保健福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論	2		リハビリテーション医学 地域包括ケアシステム論	2 1		社会福祉概論		1																									
	専門展開科目	基礎作業療法学					作業療法学概論 表面解剖学 基礎作業学	2 1 1				作業療法理論	1		基礎作業学演習	1		作業療法研究概論 作業療法学教育 作業療法管理学	1 1 1																		
		作業療法評価学					作業療法評価概論	1		作業療法評価検査・測定論	1		作業療法評価検査・測定論	1		作業療法評価検査・測定演習 作業療法評価演習	1 2																				
		作業療法治療学						日常生活活動学 作業と神経生理 作業と心身機能	1 1 1		日常生活活動演習 義肢装具学 中枢神経系作業療法学 中枢神経系作業療法学 運動器系作業療法学 内部障害作業療法学 精神障害作業療法学 発達障害作業療法学 老年期障害作業療法学 ハンドセラピー学	1 1 2 2 1 1 1 1 1		装具製作演習 リハビリテーション関連機器 中枢神経系作業療法演習 運動器系作業療法演習 内部障害作業療法演習 精神障害作業療法演習 発達障害作業療法演習	1 1 1 1 1 1 1		生活行為向上マネジメント論	1																			
		地域作業療法学						地域作業療法学	2									生活環境学	1		地域作業療法学演習	1		多職種連携論 レクリエーション実践		1 1											
		総合作業療法学					実践力演習	1				実践力演習	1		実践力演習	1								総合演習		1											
		臨床実習					臨床実習（基礎）	1		臨床実習（地域）	1							臨床実習（評価） 臨床実習（応用）	6 8		臨床実習（総合）	9		卒業研究		2											
								18 23	5				20 23	3				17 23	6				18 21	3				17 18	1			16 16			10 10		

リハビリテーション学部 作業療法学科

目次

リハビリテーション学部 作業療法学科

科目 区分	授業科目	配当 年次	必修	選択	時間 数	担当教員	頁
総合 科学 科目	基礎ゼミナール	1前	1		30	作業療法学科専任教員	
	情報科学	1前	1		30	國澤英雄	
	基礎統計学	1前	1		30	國澤英雄	
	哲学	1前		1	30	鷺見コト江	
	英語 I	1前	1		30	西牟田祐美子	
	教育学概論	1前	2		15	伊藤亜希子	
	現代の倫理	1前	2		15	鷺見コト江	
	健康と生活	1前		2	15	廣田薫	
	自己管理と社会規範	1前		2	15	高山務	
	人間関係論	1前	2		15	市川季夫	
専門 基礎 科目	解剖学	1前	2		30	高井良招	
	生理学 I	1前	1		30	太田美智男	
	運動学 I	1前	1		30	小澤敏夫、原和子、酒向俊治	
	生命倫理	1前	1		15	太田美智男	
	リハビリテーション概論	1前	2		15	小澤敏夫、酒向俊治	

学部 研究科	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	基礎ゼミナール	担当教員名	作業療法学科専任教員全員
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・リハビリテーションのトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを修得し、リハビリテーション学に対する学びの意欲を高める。		
到達目標	大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法と、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	後日お知らせいたします。		
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
テキスト・参考書			
学修方法			
評価方法			
オフィスアワー			
備考・履修条件			

学部 研究科	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	情報科学	担当教員名	國澤 英雄
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	大学での学びに必須となる基礎的な情報科学について教授する。 Windows PCの基礎知識と大学内のPC・ネットワークを活用する方法を知ったうえで、レポート、卒業研究、その他あらゆる資料を 作成するために必要なソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションの 技術を身につける。なお本講座ではWord、Excel、Power Pointとも、基本的な内容が機能的に網羅されているために、これらのソフトウェアの一般的な活用が可能となる。		
到達目標	① 電子メールの作成、送信、受信ができる。 ② Wordを用いて文書・表が作成ができる。 書式の設定・段組みができる。アートの挿入ができる ③ Excelを用いてグラフ・表の作成の作成や計算ができる。シート設定・作業グループの変更ができる。 ④ PowerPointを用いてプレゼンテーション資料の作成ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	PCの基本、ネットワークの活用	PCの情報処理の原理、ハードウェア、学内ネットワークの活用	
第2回	Word基本操作	Wordの起動・終了、ファイル操作、文字の入力・変換	
第3回	Word文章の作成	文書の確認、ページ設定、コピー・移動、保存	
第4回	Word表の作成	表の作成、表の範囲の選択、表のレイアウトの変更	
第5回	Word文章の編集	様々な書式の設定、段組みの設定	
第6回	Word表現力のアップ	ワードアートの挿入、クリップアートの挿入、図形の作成	
第7回	Excel基本操作	Excelの起動・終了、ブックを開く・セル指定、スクロール	
第8回	Excelデータの入力	データの入力・編集、セルの範囲の選択、ブックの保存	
第9回	Excel表の作成	関数の入力、罫線・塗りつぶしの設定、表示形式の設定	
第10回	Excel数式の入力	関数の入力の確認、様々な関数の利用、相対参照・絶対参照	
第11回	Excel複数シートの操作	シート名の変更、作業グループの設定、シートの移動・コピー	
第12回	Power Point画像の加工	図の外観の変更、図の回転・トリミング、図の背景の削除	
第13回	Power Pointグラフィックの活用	ページ設定の変更、背景の設定、図形の作成、配置の調整	
第14回	Power Pointマルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入	
第15回	Power Pointスライドのカスタマイズ	スライドマスターの表示・編集、ヘッダー・フッターの挿入	
テキスト・参考書	教科書：「よくわかる Microsoft Word 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-382-3 教科書：「よくわかる Microsoft Excel 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-380-9 教科書：「よくわかる Microsoft PowerPoint 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-384-7		
学修方法	各テーマについての講義、演習を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	演習問題の成績（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	金曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	基礎統計学	担当教員名	國澤 英雄
学年 開講時期	1 年次前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	近年リハビリテーションの分野でも、実証的なデータを解析するために必要な統計学的手法を身につけることが求められている。そこで本講座では、ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散 の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、相関と回帰、カイ二乗検定、平均値に対する推定等の分析手法を学習する。リハビリテーション分野を中心として、多くの医療分野での具体的な統計の実例を示すとともに、各単元毎に、演習問題を解き統計学の理解を深める。		
到達目標	① 基本統計量（平均、標準偏差）、標準誤差、変動係数、箱ひげ図などを使ってデータの整理ができる。 ② 正規性の確認、片側検定・両側検定、仮説検定など統計的推論の基礎を理解し、活用できる。 ③ 相関係数の検定と推定、回帰直線の検定と信頼区間など相関係数と回帰直線の推論ができる。 ④ データ分析ををもとに、罹患率と死亡率の推定など頻度に対する推論・生存に関する推論ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	医学データの整理 1	ヒストグラム、平均、分散、標準偏差	
第2回	医学データの整理 2	標準誤差、変動係数、中央値、箱ひげ図	
第3回	医学データの整理 3	散布図、相関係数、回帰直線	
第4回	統計学推論推論の基礎 1	正規分布、正規性の確認、二項分布Poisson分布	
第5回	統計学的推論の基礎 2	仮説検定の考え方、片側検定と両側検定、検定統計量と有意水準	
第6回	統計学的推論の基礎 3	標準正規分布、カイ二乗分布、 t 分布、F分布	
第7回	平均値に関する推論	正規母集団の母平均 μ に関する推定、二つの母平均の差の検定	
第8回	相関係数と回帰係数に関する推論 1	相関係数の検定と信頼区間	
第9回	相関係数と回帰係数に関する推論 2	回帰係数の検定と信頼区間	
第10回	頻度の関する推論 1	Proportionとrate、母 p に関する推定、2×2分割表の χ^2 検定	
第11回	頻度の関する推論 2	Fisherの正確な検定、対応のある2つの母比率の差の検定	
第12回	頻度の関する推論 3	罹患率、死亡率に関する推測、厄病発生のリスク比較	
第13回	生存時間に関する推論	生存率曲線、生存率のKaplan-Meierの推定法	
第14回	実験計画法-分散分析 1	一元配置分散分析、正規性・等分散の確認、順位検定	
第15回	実験計画法-分散分析 2	完備乱塊法、Friedmanの順位検定、ラテン方格法	
テキスト・参考書	テキスト：医学への統計学（古川俊之監修・丹後俊郎著、朝倉書店）		
学修方法	各回、プリントを配布する。電卓を持ってくること		
評価方法	演習問題の成績（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	金曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	哲学	担当教員名	鷲見コト江
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。リハビリテーションは実践の科学であると共に、リハビリテーションの対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。		
到達目標	フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考え従って、現代の科学の発見も踏まえて、「人間とは何か」を考えていきたい。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	哲学誕生	哲学とは	
第2回	愛智学としての哲学	愛智学とは	
第3回	哲学と方法	思考方法とは	
第4回	科学と哲学	科学と哲学の違い	
第5回	ベルクソンの存在論	存在とは	
第6回	現代の宇宙論	宇宙の歴史とは	
第7回	ベルクソンの生命論	生命とは	
第8回	生命の進化	ホモ・サピエンスとは	
第9回	ベルクソンの人間論	人間とは	
第10回	心的存在者としての人間	心の構造	
第11回	エリクソンの人間論	社会的人間とは	
第12回	エリクソンの発達理論	心の発達とは	
第13回	障害とは	障害者と健常者	
第14回	発達障害とは	発達障害者の心	
第15回	看護とリハビリテーション	リハビリテーションとは	
テキスト・参考書	テキスト:特に指定しない。		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	学習課題 40%、最終試験またはレポート 60%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語 I	担当教員名	西牟田 祐美子
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語 I」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。		
到達目標	① 英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 ② 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介, 他己紹介の練習	
第2回	Emergency and vital signes	救急とバイタルサインに関する英語	
第3回	Radiology	レントゲンに関する英語	
第4回	Bones	骨に関する英語	
第5回	Body parts	身体の部位に関する英語	
第6回	Body organs	臓器に関する英語	
第7回	Hospitalization	入院に関する英語	
第8回	Medicine	投薬に関する英語	
第9回	Nutrition and Allergies	栄養とアレルギーに関する英語	
第10回	Mataninity out patient	妊娠出産に関する英語	
第11回	Pediatric Outpatient	小児科外来と幼児英語	
第12回	Out of hospital	退院に関する英語	
第13回	Palliative care	緩和ケア、ホスピスに関する英語	
第14回	Visitor	面会に関する英語と、海外医療	
第15回	Making suggestions	提案に関する英語、まとめのテスト	
テキスト・参考書	テキスト：英語で学ぶプライマリーケア 西牟田祐美子編著 講談社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてオンライン資料を適宜使用する。		
評価方法	筆記テスト60%、プレゼン10%、宿題30%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習, 復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	教育学概論	担当教員名	伊藤 亜希子
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	教育の意味、役割、思想、方法、現状などについて広く概説する。これまでの学校生活の中での学習経験、部活動や習い事などの経験を振り返りながら、教育と学習の意味を再認識する。今後、専門的知識、技術を学ぶと同時に、理学療法、作業療法の専門家として指導する立場にあることを自覚し、意識を高める。そのために自分自身の学習にも教育の観点から、自己を客観的に捉える視点を学んでいく。		
到達目標	① 人間にとっての教育の意味を説明することができる。 ② 教育学の基礎的な知識を身につけ、理解する。 ③ 現代の社会状況を踏まえ、教育の問題について考えを述べることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	教育学とは	授業内容の説明、自分自身の「教育」の体験	
第2回	教育の役割	教育とは何か、なぜ必要か、教育の目的と役割	
第3回	教育の思想① 一近代以前一	近代以前の子ども観と教育観の変遷	
第4回	教育の思想② 一近代以降一	近代以降の子ども観と教育観の変遷	
第5回	教育の思想③ 一日本の場合一	日本における教育観と学校教育	
第6回	教育の方法①	教育課程とカリキュラム	
第7回	教育の方法②	授業の実践と評価	
第8回	まとめ	1～7回目のまとめ	
第9回	教育と心理①	学ぶということと教えるということ	
第10回	教育と心理②	学習と記憶	
第11回	教育と心理③	伝達とコミュニケーション	
第12回	大学生の教育環境	大学生教育の専門性と教養	
第13回	教育の現代的課題	子どもをめぐる問題、国際化、情報化社会への対応	
第14回	教育改革の動向	社会に開かれた教育課程とは	
第15回	まとめ	まとめと展望	
テキスト・参考書	テキスト：プリント配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30％）、期末レポート成績（70％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	現代の倫理	担当教員名	鷲見 コト江
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。		
到達目標	現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、リハビリテーションの対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	倫理と道徳	倫理とは	
第2回	論理的判断	価値判断の方法	
第3回	現代の倫理的課題	SDGsと感染症	
第4回	ホセ・ムヒカの倫理観	発達と幸福	
第5回	アリストテレスの倫理学	善と幸福	
第6回	デカルトの道徳論	学問と道徳	
第7回	スピノザの倫理学 I	人間とは	
第8回	スピノザの倫理学 II	徳とは	
第9回	カントの道徳論 I	義務と欲望	
第10回	カントの道徳論 II	道徳と幸福	
第11回	生命と倫理	医療倫理とは	
第12回	認知症と人権	アルツハイマー型認知症とは	
第13回	ユマニチュードの倫理観	リハビリテーションと人権	
第14回	育児と人権	虐待とは	
第15回	人体と健康	人体とは	
テキスト・参考書	テキスト：特に指定しない。		
学修方法	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。		
評価方法	学習課題40%、最終試験またはレポート60%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	健康と生活	担当教員名	廣田 薫
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。リハビリテーション職として必須となる、健康と生活の関係について、学生による調査・発表・討議を中心に授業を進めていく。		
到達目標	① 自らの心身の健康を保持するための基本的な生活を理解し、豊かな日常生活を送るために必要な生活習慣が理解できる。 ② 日常生活において起こるさまざまな問題に対して、対処できるライフスキルについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、健康と生活総論	新聞などで健康、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと	
第2回	ライフスタイルと健康①	食生活、飲酒、喫煙	
第3回	ライフスタイルと健康②	休養、睡眠	
第4回	ライフスタイルと健康③	運動、その他の身体活動	
第5回	生活習慣病の科学①	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法	
第6回	生活習慣病の科学②	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムと予防方法	
第7回	生活習慣病の科学③	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法	
第8回	生活習慣病の科学④	骨粗鬆症の発症メカニズムと改善方法	
第9回	加齢と健康の科学①	サルコペニア、栄養摂取	
第10回	加齢と健康の科学②	ロコモティブシンドローム、フレイルの予防	
第11回	健康増進のための運動の科学①	筋力トレーニング	
第12回	健康増進のための運動の科学②	持久性トレーニング	
第13回	安全に生活をしていくための方法①	運動・活動(健康習慣)	
第14回	安全に生活をしていくための方法②	仕事	
第15回	安全に生活していくための方法③	地域での生活と活動	
テキスト・参考書	テキスト：特に指定しない。毎回資料を配布する。 参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版 日本医事新報社		
学修方法	スライドによる講義を主として、時にはディスカッション形式を取り入れて学生間の意見交換を交えるなどして進めていく。		
評価方法	最終試験100%により評価する		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	自己管理と社会規範	担当教員名	高山 務
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	自己管理とは、自らををどう律するか、自らの管理・コントロールすることである。リハビリテーション職には、自己管理能力と共に、リハビリテーションの対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと、目的意識を持つこと、時間管理や体調の管理などがあり、それらをどのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修する。社会規範の定義、成り立ち等の基礎知識を学び、社会のルールやモラルについて考察する。自己管理の基礎である時間、体調の管理方法を学び、大学生活のモチベーションや学びのスキルを維持し、向上させることで行動変容が導かれるよう、グループワークを中心として、他者との協働や多様な価値観の尊重について学ぶ。		
到達目標	日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。また、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管理のあり方を考える。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己管理していく力を養う	なぜ自己管理をすることが必要なのかを学ぶ テキスト第1章：p1-18	
第2回	書き行動と自己調整について	書き行動の方法と自己調整について学ぶ テキスト第2章：p21-41	
第3回	理解方略の相互交流について	学習における理解方略について学ぶ テキスト第3章：p43-58	
第4回	自己モニタリングスキルについて	自己モニタリングとは何か？その基礎を学ぶ。テキスト第5章：p89-107	
第5回	自己効力感と自己調整について	自己効力感の基礎と自己調整について学ぶ。テキスト第7章：p137-160	
第6回	健康管理と岐阜保健大学における節度ある風紀について	本学で期待される学生像をイメージし、社会常識を確認したうえで講義に参加する。	
第7回	自己管理とは、目標の管理と時間管理の自己管理計画、エンパワーメント、セルフケア、行動変容のためには	テキスト1.3（1章）で自己管理、自己効力感、行動変容モデルが本学の学修に有用であると認識する	
第8回	グリーンのブルシード・プロシードモデル理論、ヘルスプロモーション、失敗事例から学ぶライフスキルと時間管理	テキスト1(0章).3(1章) 熟読し各自事例を考える	
第9回	大学生活での社会常識、多様な価値観、コミュニケーション	学生相互の価値観をコミュニケーション力で確認	
第10回	事例：グループワーク（GW）導入とグループ化・グループダイナミクスと役割、ディベート、レポート作成と評価	グループワークのガイダンス：役割行動、グループダイナミクス、リーダーシップとメンバーシップ	
第11回	①セルフエフィカシー事例、②モチベーション事例：GW	グループワーク、コミュニケーション能力を培う	
第12回	③エンパワーメント・セルフケア事例、④行動変容事例：GW	グループワークの成果を発表レポート作成	
第13回	各事例でGW発表とディベート	グループワークの成果発表	
第14回	各事例でGW発表とディベート	グループワークの成果発表	
第15回	事例GWの評価、統括	グループワーク発表レポートに学びを追記し・提出	
テキスト・参考書	テキスト：自己調整学習の実践、シャク、ディル 秋場大輔 訳、北大路書房 2007年、（3672円）		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	グループワーク課題10%、レポート30%、最終筆記試験60%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		

備考・履修条件	リハビリテーション学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。
---------	--

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	人間関係論	担当教員名	市川 季夫
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間関係の意義、社会的相互作用について学ぶ。人間の発達・成長・成熟に関与している人間関係についての基礎的理論を学ぶ。人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間理解・対人関係の持ち方、人間関係を創りあげる能力を養う。人間関係を円滑に保つ技法について学び、自己理解と良好な対人関係について理解を深め、リハビリテーション職になるための土台をつくる。授業では実践に役立つようにロールプレイなども行う。		
到達目標	① 今までとは違うものの見方、考え方ができる。 ② 人間に対して、固定的な見方から柔軟な発想が出来る。 ③ 人間は他者を通じてしか自分を知ることができないということを知り、成長する私、新しい自分の発見、関係を創る力を身につけることを理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	人間関係の中の自己と他者	保健医療の専門職として、人間関係についての概念や理論、スキルを学ぶ意味を考える。	
第2回	対人関係と役割	人間関係の成立について学び、その進展と維持、さらに崩壊について学ぶ。	
第3回	態度と対人行動	人間の行動に影響する要因。人の攻撃性の理由と抑制について学ぶ。	
第4回	集団と個人	集団が個人の意思決定や行動に与える影響について学ぶ。	
第5回	コミュニケーション	人間関係を形成するための基本的手段であるコミュニケーションについて学ぶ。	
第6回	カウンセリングと心理療法	カウンセリングや心理療法の看護への応用について学ぶ。	
第7回	コーチング	コーチングとは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。	
第8回	アサーティブコミュニケーション	アサーティブコミュニケーションとは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。	
第9回	保健医療チームの人間関係	保健医療におけるチームの特性を学ぶ・チーム医療、多職種連携の意義を理解する。	
第10回	患者を支える人間関係	患者と医療者の関係を理解する。両者の相互作用を評価する方法を学ぶ。	
第11回	家族を含めた人間関係	患者を含めた家族が、医療の対象である。近代家族とそのゆらぎを理解する。	
第12回	地域をつくる人間関係	様々な利害関係を持つ人間集団である地域の力を評価し、障害等の有無にかかわらず、住み慣れた地域で暮らせる条件を考える。	
第13回	「きく」技術 ①	ロールプレイ 「家族が非協力的な事例」事例紹介・事例理解	
第14回	「きく」技術 ②	ロールプレイ 「学生によるプレイ」「講師によるプレイ」	
第15回	まとめ	見通しの持てる折り合いのつけ方	
テキスト・参考書	テキスト：石川 ひろみ著者代表「人間関係論」 医学書院 2018第3版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントも使う。		
評価方法	課題レポート 80%、小レポート20%		
オフィスアワー	講義後 15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学	担当教員名	高井 良招
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	人体を構成する運動器（骨・筋・靱帯など）、脈管、内臓、神経、感覚器系、及び組織学や発生学について学ぶ。器官を形成する組織と個体発生、系統発生について理解する。個々の器官・器官系について基本的な構造と機能、及びそれらの器官系から成り立っている人体の構造と機能を理解する。また医学における解剖学の役割・解剖学の歴史について学び、各臓器（呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など）の機能について理解を深めるための講義を展開する。		
到達目標	① 各器官の形態と機能の概略を説明できる。 ② 運動器、神経系、各臓器の構造と機能について理解できる。 ③ 医療の学習、臨床で必要となる解剖学用語を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	概説	解剖学とは、器官の発生、組織	
第2回	骨学① 形態	頭蓋の骨、顔面の骨	
第3回	骨学② 形態	体幹の骨、脊柱と椎間、胸郭の骨	
第4回	骨学③ 形態	上肢帯の骨、自由上肢骨	
第5回	骨学④ 形態	下肢帯の骨、自由下肢骨	
第6回	関節① 形態と機能	頭蓋と脊柱の関節とそれ等の靱帯	
第7回	関節② 形態と機能	上肢の関節（上肢帯、肩、肘、手）とそれ等の靱帯	
第8回	関節③ 形態と機能	下肢の関節（下肢帯、股、膝、足）とそれ等の靱帯	
第9回	関節④ 形態と機能	骨盤（腸骨、恥骨、坐骨、仙骨）とそれ等の靱帯	
第10回	筋学① 形と分類と人体部位別の筋	筋の形状分類、頭頸部の筋の形態と機能的特徴	
第11回	筋学② 人体部位別の筋	体幹、胸腹部の筋の形態と機能的特徴	
第12回	筋学③ 形態と機能	上肢（上肢帯、肩、肘、手）の筋の形態と機能的特徴	
第13回	筋学④ 形態と機能	下肢（下肢帯、股、膝、足）の筋の形態と機能的特徴	
第14回	中枢神経① 脳の構造	脳の血管、大脳、小脳の構造と機能、皮質の細胞層	
第15回	中枢神経② 脳の構造	間脳、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と機能	
第16回	テキスト：医学への統計学（古川俊之監修・丹後俊郎著、朝倉書店）	中脳、橋、延髄の構造と機能	
第17回	中枢神経④ 伝導路と神経核	求心性・遠心性神経路	
第18回	脳神経 運動・知覚・自律神経	神経核・神経路・皮質領域とその機能	
第19回	脊髄神経① 頸神経と頸神経叢	知覚性と運動性、副交感性と交感性の神経とその分布	
第20回	脊髄神経② 頸神経と腕神経叢	鎖骨上・下部の神経で胸・肩部・上肢に分布する神経	
第21回	脊髄神経③ 胸神経と腰神経・腰神経叢	肋間神経、神経叢の構成と腹部・大腿に分布する神経	

第22回	脊髄神経④ 仙骨神経と仙骨神経叢	神経叢の構成と大腿・下腿・足に分布する神経
第23回	自律神経① 交感神経と幹神経節	脊髄側角の細胞と白・灰白交通枝、その機能
第24回	自律神経② 副交感神経	頭仙系と脊髄副交感系、その機能
第25回	内臓学① 呼吸器	呼吸機能に関係する臓器の形態とその機能
第26回	内臓学② 循環器	心臓と脈管系の形態とその機能
第27回	内臓学③ 消化器	消化機能に関係する臓器の形態とその機能
第28回	内臓学④ 泌尿器・性器	尿生成・排泄に関係する臓器の形態とその機能、種族の継続
第29回	感覚器とその神経① 形態と機能	嗅覚・味覚・視覚器の構造とそれ等の神経と機能
第30回	感覚器とその神経② 形態と機能	聴覚・体平衡器の構造とそれ等の神経と機能
テキスト・参考書	教科書：金子丑之助著 日本人体解剖学上・下巻 改訂20版 南山堂 参考書：佐藤達夫訳 人体解剖カラーアトラス 原書第8版 南江堂	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）	
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:20 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学Ⅰ	担当教員名	太田 美智男
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学は人体の機能、つまり働きと役割を学ぶ分野であり、解剖学や生化学と並んで人体のしくみを理解する上で最も基礎的な知識となる。人体そのものを1つのシステムとして考え、臓器固有の機能、動物特有の神経回路や感覚のしくみ、さらに最新の治験に基づく細胞レベルや分子レベルから見た生理機能など、非常に広範囲な領域を異なった観点から学修する。生理学をより良く理解するため、生理現象の規範となっている物理化学的な基礎知識についてもこの中で講義する。		
到達目標	① 細胞の機能を説明できる。 ② 刺激の受容、興奮伝導、筋収縮の流れについて説明できる。 ③ 自律神経の構造と機能を説明できる。 ④ 血液、心臓、肺、腎臓の機能、ホルモンの働きを説明できる。 ⑤ 内分泌に関わる部位とホルモンについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生体の構造、細胞	生体の恒常性、刺激と興奮、刺激と適応、細胞の構成元素、細胞の構造と機能およびその調節	
第2回	神経生理①	感覚神経と運動神経の構造と機能、脳および神経系諸器官の基本的構造と要素	
第3回	神経生理②	静止膜電位と活動電位、興奮伝導、シナプスの機能と分類、シナプスにおける伝達メカニズム、ニューロン回路の種類	
第4回	自律神経系	自律神経の構成と作用および受容体、摂食・飲水の調節、概日リズム、自律神経反射	
第5回	運動生理①	運動ニューロン、脊髄の構造、神経筋結合部の構造と機能、骨格筋・平滑筋・心筋の機能、筋の収縮機構	
第6回	運動生理②	脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と機能、反射、随意運動と不随意運動、運動の調節と制御	
第7回	感覚生理①	体性感覚・特殊感覚・内臓感覚、刺激から認知に至る神経機構、末梢の感覚受容機構と伝達メカニズム、1次体性感覚野における処理機構、体性感覚の統合機構、痛覚の神経機構	
第8回	感覚生理②（特殊感覚）	視覚器の構造と伝導路、眼の屈折力と調整作用、暗順応、視覚物質と光受容、嗅覚と味覚の受容器、聴覚器の構造、音の伝導と伝導路、平衡感覚器の構造と機能、前庭反射の神経機構	
第9回	脳と認知・行動	大脳皮質の機能局在、連合野の機能、大脳辺縁系と視床下部の機能、運動と感覚の統合機構、情動・学習・記憶をつかさどる脳の部位と記憶のメカニズム、体温調節	
第10回	脳波と睡眠	脳波の分類と意識水準、脳波の睡眠段階区分と睡眠の生理学的変化、覚醒と睡眠の調節、サーカディアンリズム	
第11回	血液の組成と機能、免疫	血漿成分、血液細胞の働き、血液凝固の仕組み、炎症、免疫のメカニズム	
第12回	心臓の働き	心臓の構造、興奮伝達と心筋収縮、自律神経系による調節、心電図、血液循環と調節	
第13回	呼吸と肺の働き、腎臓の機能	肺の構造と機能、ガス交換、腎臓の構造と機能、糸球体濾過と尿細管における再吸収、体液の浸透圧の調節、酸塩基平衡	
第14回	消化と吸収、栄養と代謝	消化管の構造と消化吸収機能、栄養の概要、エネルギー代謝、肝臓、膵臓の機能	
第15回	内分泌臓器、ホルモン	各内分泌臓器とホルモンの種類ならびに作用、ホルモン分泌の調節	
テキスト・参考書	テキスト：佐々木 誠一編集 生理学要点整理ノート改訂第2版 羊土社 参考書：大地陸男著 生理学テキスト第8版 文光堂 下正宗他編集 コアテキストⅠ人体の構造と機能第2版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	金曜日 15:20～16:20 研究室		

備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。
---------	--------------------------------

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	運動学Ⅰ	担当教員名	小澤 敏夫・原 和子・酒向 俊治
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学は、身体運動の科学であり、理学療法、作業療法を実務とする為には必要不可欠の学問である。身体構造理解の基礎となる解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることを理解する。本講義では、筋骨格系、関節構成体構造とモーメントやテコの視点から身体運動、動作、行為が効率良く合理的システムに基づいて行われているか学ぶ。また運動学的分析の手法を学び、人間の動作を客観的に分析できることを目指す。身体運動の理解に必要な物理学や生体力学の知識を整理し生体の構造や機能について教授する。		
到達目標	運動学に多く使われる用語を理解し使用できるようになる。運動力学の基礎、身体の運動時、動作時の特徴を理解し、実践の場における病態説明、デモンストレーションが出来るようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、評定方法の他、運動学の重要性について学ぶ	
第2回	運動学総説	解剖学、生理学の基礎医学ならびに理学療法、作業療法との関連について学ぶ	
第3回	身体運動Ⅰ	運動学を理解するための必要な身体における運動面、運動軸について学ぶ	
第4回	身体運動Ⅱ	運動学を理解するための必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ	
第5回	運動を構成する要素と器官①（骨、関節）	身体運動の効果器としての骨と関節構造と機能について学ぶ	
第6回	運動を構成する要素と器官②（筋）	身体運動の効果器としての筋の構造と機能について学ぶ	
第7回	運動を構成する要素と器官③	①②で学んだ運動を構成する要素と器官について、演習を行い理解を深める	
第8回	身体運動のまとめ	身体運動について総括し実践的演習を行い運動学基礎の理解を深める	
第9回	生体力学の基礎Ⅰ（モーメント）	運動学理解を深める為、運動時の筋活動および関節に生じるモーメント（トルク）について学ぶ	
第10回	生体力学の基礎Ⅱ（平衡と安定）	運動学理解を深める為、運動時の平衡条件および安定性について学ぶ	
第11回	生体力学の基礎Ⅲ（ニュートン力学）	ニュートン力学の基礎、仕事とエネルギー消費および身体とてこについて学ぶ	
第12回	姿勢と構え	姿勢とその制御機構について運動学的に理解する	
第13回	歩行	歩行動作時の運動学的、運動力学的分析方法について理解する	
第14回	異常歩行と走行	高齢者、異常病的歩行の特徴、その要因、走行時の運動効率性について理解する	
第15回	総括、質疑		
テキスト・参考書	教科書：「基礎運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4-263-21153-3 参考書：「臨床運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4263211342		
学修方法	テーマごとに座学形式で行う。		
評価方法	定期試験（筆記試験）100%		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	（予習） 運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。 毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてくること。 例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。（復習） 授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生命倫理	担当教員名	太田 美智男
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	保健・医療・福祉システムが進展する中で、倫理に関する知識について学び、生命、人の尊厳を学ぶ。ヒトゲノム解析、ES細胞、iPS細胞の研究応用、クローン技術、脳死、代理母出産や凍結受精卵による妊娠出産などの生命技術は、人々に益をもたらす一方で複雑な生命倫理問題を生みだしている。生命技術が倫理や哲学と離れたところで一人歩きしてしまうと何が起こるか。ヒトはいつ人間となるのか、いつ死ぬのかなどの困難なテーマについて考察を深め、生命の質について学ぶ。また生命技術と生命医療の進歩が人類に何をもちこたらし、どのような方向に向かっているのかを学ぶ。		
到達目標	① 生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の理論の動向が理解できる。 ② 医療における倫理に関する規範・原則や指針について説明できる。 ③ 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生命倫理と自己決定制約	生命倫理、医療倫理、臨床倫理の4原則	
第2回	生殖医療と人工妊娠中絶	生殖補助医療の発展と生殖への第三者介入、減胎手術、代理母利用、胎児の「生命権」と女性の権利、中絶の法的許容範囲	
第3回	遺伝子技術	再生医療と受精卵・胚の地位、遺伝子改変の限度、遺伝子診断と中絶、優生学	
第4回	臓器移植①	脳死、臓器摘出の基準、臓器分配の基準、臓器移植法	
第5回	臓器移植②	生体からの臓器提供、移植ツアー、臓器売買、臓器くじ	
第6回	終末期医療に関わる倫理	消極的安楽死と尊厳死	
第7回	病名などの告知	インフォームド・コンセントとパターナリズム	
第8回	医療過誤と医学研究	医療過誤と医療従事者の法的責任 不正と利益相反、倫理審査委員会の役割	
テキスト・参考書	教科書：今井道夫著 生命倫理学入門（第4版） 産業図書 参考書：玉井 真理子・大谷 いづみ編 はじめて出会う生命倫理 有斐閣		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	金曜日 15:20～16:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教員名	小澤 敏夫・酒向 俊治
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて学ぶ。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害の分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションなどのリハビリテーションの仕組みについて解説する。また、地域リハビリテーションも含めた施設別、病期別リハビリテーションについても触れ、それぞれのリハビリテーションの目指す目標についても学習する。		
到達目標	① リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて説明できる。 ② 関係法規と担当する保健医療福祉行政について説明できる。 ③ 障害の様相とそのリハビリテーションを説明できる。 ④ 地域リハビリテーションについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーションの理念と障がい	リハビリテーションの理念とその歴史の変遷、サービス体系、障がいに対する基本的な考え方を理解する。	
第2回	リハビリテーション関連法規	障害者基本法、介護保険制度を中心に理解する。	
第3回	リハビリテーションのサービス体系	リハビリテーションサービスとは何か、福祉サービス、社会資源、社会資源について理解する。	
第4回	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、場面ごとのリハビリテーション	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、の違いを理解する。施設ごとのリハビリテーションを理解する。	
第5回	高齢化による機能障害の様相	高齢化と老化、高齢者に多い疾患と機能障害	
第6回	高齢化による機能障害のリハビリテーション	高齢化による機能障害のリハビリテーションの目的と実際	
第7回	身体障害の様相	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害について理解する。	
第8回	身体障害のリハビリテーション	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害に対するリハビリテーションの目的と実際	
第9回	知的障害の様相	知的障害とは何か、その出現と成り立ち、障害の程度の評価について理解する。	
第10回	知的障害のリハビリテーション	乳幼児期、学童期、思春期、青壮年期、高齢期のリハビリテーションの目的と実際。	
第11回	精神障害の様相	精神の障害とは何か、代表的な疾患、障害の程度の評価について理解する。	
第12回	精神障害のリハビリテーション	相談面接、総合評価、目標設定、精神障がい者に関わる際の留意点について理解する。	
第13回	小児の障害（発達障害）の様相	身体機能系障害、精神・心理系障害を理解する。	
第14回	小児の障害（発達障害）のリハビリテーション	身体機能系障害、精神・心理系障害のリハビリテーションを理解する。	
第15回	地域におけるリハビリテーションの展開過程	地域リハビリテーションとは何か、活動に関する諸因子、支援体制について理解する。	
テキスト・参考書	テキスト：上好昭孝、田島文博編著 医学生・コメディカルのための手引書リハビリテーション概論 改訂第3版 永井書店 参考書：砂原茂一著 リハビリテーション 岩波書店 上田敏著 ICFの理解と活用 【KSブックレットNo.5】人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか きょうされん 中村隆一、佐直信彦編 入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		